

ひむか未来マイスター・ハイスクール事業

目標

- デジタル技術を活用した付加価値の高い商品開発やビジネスモデル変革を目指すこれからの地域産業界を担う人材の育成。
- 予測困難な社会の変化にも主体的に対応できる資質・能力を有する人材の育成。
- 地元企業のもつ技術力や存在意義などの魅力に触れ、自らもそうした企業で持続可能な地域や社会の実現に貢献しようとする態度の育成。

概要

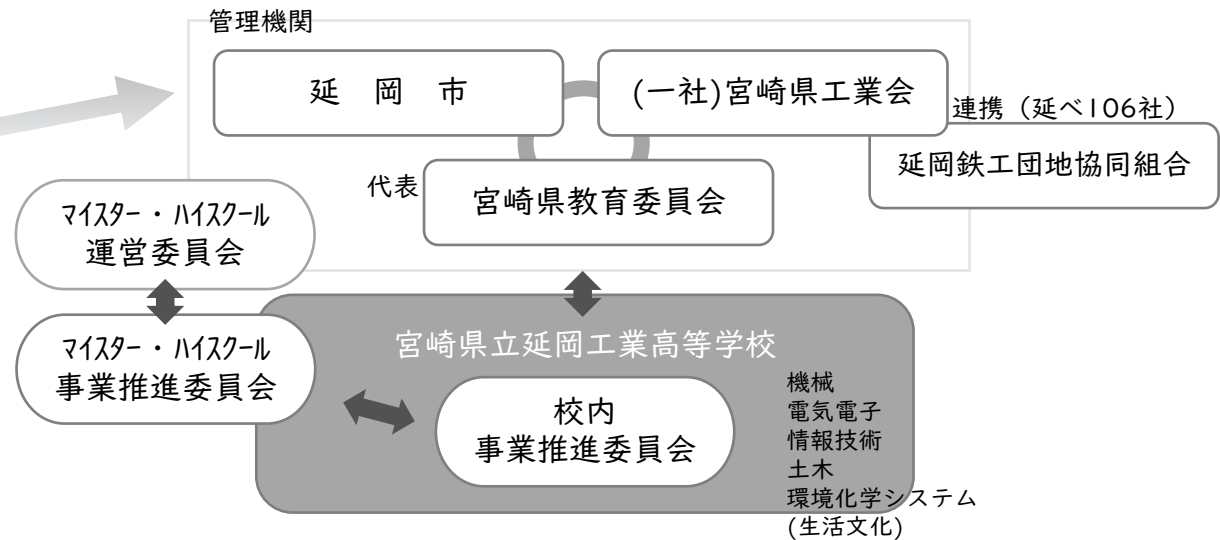
高校段階での人材育成として、「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発（機械科）からスタート。地域産業界等のニーズを踏まえながら他学科へ展開。長期的な人材育成の視点に立ち、高校内でエンLab（エンラボ）（注1）を新たに設置し、延岡市民のものづくりの拠点を目指す。

事業計画

1年目	2年目	3年目	4年目以降
※「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発 機械科実習の充実	機械科実習の更なる充実	機械科実習新カリキュラム	
ニーズ調査（注2）	機械科以外の取組や大学等との連携の在り方などの検討	（具体的な取組）	
エンLab環境整備	エンLab環境整備・試験運用	エンLab環境整備・本格運用	

注1：レーザーカッターや3Dプリンタ等の多様な工作機械を備え、小中学生向けにワークショップを開催するなどものづくりの楽しさを体感できる場所。
 注2：ニーズ調査は2年目以降も適宜行う。

実施体制



機械科（1～3年生の実習内容の見直しを行い、産業実務家教員からの技術指導や企業での実習を開始する。具体的には、NC旋盤やワイヤーカット（放電加工機）等を用いた各種加工技術について、特に、コンピュータを用いた設計・製造（CAD/CAMシステム）技術の習得に係るカリキュラムの研究開発を行う。また、令和2年度補正スマート専門高校事業で整備予定のマシニングセンタや3Dプリンタを用いた実習内容の検討、それに係る産業実務家教員の選任や実習受入れ企業の決定、次年度に向けた年間計画の作成等を行う。併せて、エンL a bの環境整備を行う。

- ①※～「次世代地域産業人財像」策定にかかる検討会
- ②※～延岡鉄工団地協同組合、延岡工業高校と様々なキャリア教育および生徒就職と関係の深い企業、県工業会県北支部
- ⑤※～小学生向けの工作教室、工業教育フェアワークショップ（県工業会テクノフェアと共催）

業務項目	実施期間（令和3年6月1日～4年3月31日）									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○ 実習内容の見直し		①			※	※	※			
○ 産業実務家教員からの技術指導					②	※	※			
○ 企業での実習						③				
○ 次年度に向けた年間計画の作成							④			
○ エンL a bの環境整備			※		⑤		※			



CEO

産業実務家教員

成果

- (1)本事業の実施により、企業や地元行政と今まで以上に連携を図ることができた。また、学校内の教育活動に対して意見をいただく機会が増えた。
- (2)マイスターハイスクールCEOは年度当初より事業に参画していただき、学校に足を運んで、先生方と意見交換を図っているところである。企業の方から見た教育活動へ忌憚のない意見をいただいている。
- (3)各種検定の受検に向けて、現在、ICT活用の現状、地元企業の得意としている分野をお伺いしている。実現に向け事業にフィードバックをしていきたい。また、これまで取り組んでいない「CAD検定」は今年度の施設整備により、実現に向けた機器導入を進めている。
- (4)エンL a b運用を見据えた装置導入が進んでおり、今年度内に実習室環境が整うことから、実習室利用の活動にも検討を広げる。
- (5)小学生向けの工作教室、ワークショップ（工業教育フェア）の実施では、生徒の主体的な活動、ICT活用による技術支援やエンL a bにおける開かれた環境への手応えを得ることができた。

課題

- (1)コロナ禍の中、委員会の実施が困難を極めているため、オンラインを活用しながら進める必要がある。他にも生徒の企業現場での活動、企業への生産活動への影響、新たな事業への転換にエネルギーが必要となっている状況もある。
- (2)本業とのかねあいもあり、実務家教員の選定に苦労している。年度内に関係団体と連携を図り今年度中に依頼。
- (3)地元就職率3年後目標値60%と設定しており、今年度実績は56.3%（昨年度は50%）。
- (4)企業についてのニーズ調査は多岐に渡っているため、教職員のニーズ調査を行うことで、企業や地元自治体、学校が求める生徒像を明確にし、今後のカリキュラム構築に反映していきたい。